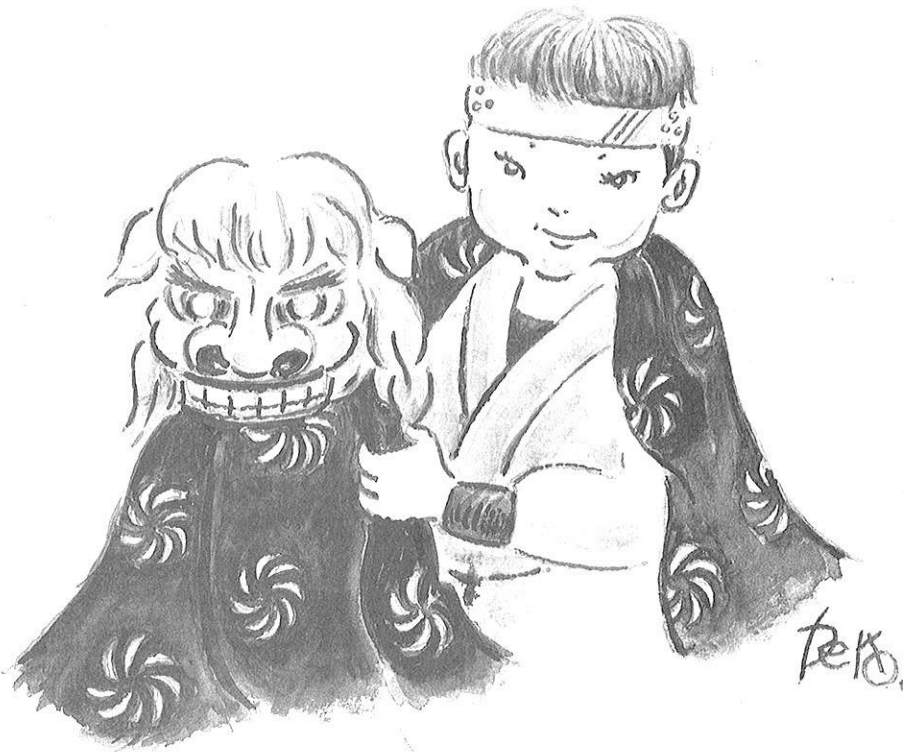


光の子



No.134 2009.1.1

●年間聖句 自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。
(レビ記19章18節)



謹賀新年

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家

「ししまい」

挿絵・中島英子

「母子像」

大利根の野をめぐらせて冬うらら

くぐらねばさびしさぬぐひきれぬ鳩

セーターは愛の山河のごときもの

日記買はねばこれからが始まらず

泪目にあふれて光る冬さくら

初日さす手を取りあへる母子像に

奴唄学校ぎらひかも知れず

落合 水尾

〔浮野〕主宰

マリーさんとラモンさん

JICAシニア海外ボランティア 仙道 富士郎

思いを感じながら新婚もどきの毎日を送っている次第。もっとも、酒を飲みすぎて妻に注意される様は、地球の裏側へとところ変われども、一向に変わらないのだが。私たちの生活を支えてくれてい

月日の経つのはまことに早いもので、妻と二人のパラグアイ生活も、もう一か月を超してしまつた。前にも書いたが、いま、トヨタパラグアイ総代理店など広く事業を展開している豊歳さんのお宅に世話になっている。

食品等の買い出しは奥様が車で一緒にしてくれ、アボランティアを「シニアボランティア」などと言つたら

他のシニアボランティアに怒られてしまいそう

な、恵まれた生活である。なにしろ、毎日夕飯を六時過ぎに一

緒にいただくなど、結婚以来はじめての経験であり、すこし戸

惑いを感じながら新婚もどきの毎日を送っている次第。もっとも、酒を飲みすぎて妻に注意される様は、地球の裏側へとところ変われども、一向に変わらないのだが。私たちの生活を支えてくれてい

る裏方が、マリーさんとラモンさんである。二人とも豊歳家に二十年以上上務めており、豊歳夫妻の信望はまことに厚い。この国ではお手伝いさんに掃除、洗濯、食事作りを手伝ってもらうのがかなり一般的なのだが、「宝石がなくなつた」などと結構いざこざも多いと聞くが、二人の二十年選手は豊歳家の裏方をすべてまかされている感じで、その存在感はまことに大きい。

マリーさんはほぼ週に二回私たちの部屋も掃除してくれるのだが、この人は実に特色のある方で、私たち夫婦の話題に上ることも多い。私はだらしない男で、机の周囲はいつも乱雑に散らかされているのだが、ある日帰宅してみると、私にとつては異様な光景に出くわした。パソコン机の隅に二段の小さな三角コーナーがあるのだが、前日までは乱雑に散らかっていたホチキス、セロテープ、鋏など諸々の文房具が、見たこともない美しい整理のされかたで置かれていた。ではないか。それは触るのものはかられるような、見事な整理の仕方である。事実、私はそれ以来、三角コーナーから文房具を持ち出したときは、もとの場所に、マリ

ーさんが置いてくれた状態で戻す習慣が出来上がってしまった。何十年となく続いてきた私の悪い習慣を変えさせる迫力がそこにはある。三角コーナーだけでは足りない。洗面台の歯磨き粉、歯ブラシの入ったコップ、口内洗浄剤等が、直線状に置いてあり、置いてある順番を間違えても、もとに戻されてしまう。いたるところに彼女の掃除のこだわりがあり、私たち夫婦は、彼女の掃除の度に「今日はこうだった」等と新たな発見をするのに忙しい。

奥様から伺ったところでは、マリーさんは非常に激しい気性で、奥様たりといえども引かないこともあるという話である。その気性にして、この完璧な仕事であり、うべなるかなである。

一方、車の運転を主務とする男性のラモンさんは、陽気な、好人物丸出しの、まことに親切なパラグアイ人である。スペイン語のほとんど分からない私たち夫婦に、日本語、英語を交えながら、ジョークを飛ばす。陽気なだけでなく、温かさを感じさせる彼のしぐさに、地球の裏側の異国で生活を始めたばかりの妻は、大分癒されている

いる。身体障害者の補装具製作に当たっている丹羽倫己は、自らの貧しさを嘆きながら精一杯頑張ろうと決意を記した。管理的にならないように、子どもと同じ目の位置を維持することを言い聞かせながら田中郁夫はここに居る。(以上準備会だより)

何もない平地の起工式から、育ったかのように出来上がる建物に負けないようなはたらきを誓った石毛照子は指導員と結婚し、今は母親として奮闘の日々を送っている。初めて青森から出た秋本光代は、子どもたちとの暮らしの中で一人前の大人になれそうだと期待を残している。倉澤智子は、駅伝の第一走者になぞらえてその決意と責任で紙面を染めた。ここに至るまでの全てが、光の子どもの家につながっている。ここから出た子どもたちを送りだそうと、竹花信恵は決意した。(「光の子」創刊号より)

まさに決意が漲り、目を上げた荒ぶるような息づかいの十二名によつて光の子どもの家のスタートが切られたのだった。

この志をもう一度わがものにし、ここから、その出発につながる次の二十五年を展望していく第一歩を、今年、歩き出す。

去る十二月八日は「カアクペのマリア」というパラグアイの祝日で、カアクペ教会まで歩いて行って、ミサに与ると願いがかなうという言い伝えがあり、この日はカアクペ教会への長い行列ができる。「ラモンさんが、ミサが何回もあって、心が満たされ、とっても良かったと言っていたけれども、ラモンさんが話すと、本当にその通りだっただろうなあと思わされるよね」と妻は言い、私も同感ではあるのだが、そんなスペイン語がどうして妻に理解できたか、不思議ではある。

今年、光の子どもの家は二十六回目の新年度と創立二十五周年を迎える。これまで数え切れないほど多くの人々の豊かな心を集め、ここに集まったはたらき人たちの熱い思いの数々、そして一〇〇名になろうとする子どもたちの無垢な魂たちと共に紡いできた暮らしの集積などによって、不備をかこちながらも程度度の社会的評価と実績を見ることが出来ている。しかし、子どもたちのためのものの施設をめざしながら、その実は私のための私の施設にしてきた傾き

は否定することが出来ない。はたらき人たちの普遍的な課題は残存したままである。

そして、子どもたちの状況はこれまでの歴史に見ることが出来ないほどの課題を山積させて、子どもたちを窒息するほどに追い込んでいくのである。子どもの問題は四半世紀前よりも残酷な姿をさらしている。

今ここで次の半世紀に連なる光の子どもの家の歴史を、どう切り開いていくか、その転換する課題の重大さを感じている。

新しい年に

菅原 哲男

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願ひします。

今年、光の子どもの家は二十六回目の新年度と創立二十五周年を迎える。これまで数え切れないほど多くの

人々の豊かな心を集め、ここに集まったはたらき人たちの熱い思いの数々、そして一〇〇名になろうとする子どもたちの無垢な魂たちと共に紡いできた暮らしの集積などによって、不備をかこちながらも程度度の社会的評価と実績を見ることが出来ている。しかし、子どもたちのためのものの施設をめざしながら、その実は私のための私の施設にしてきた傾き

は否定することが出来ない。はたらき人たちの普遍的な課題は残存したままである。

そして、子どもたちの状況はこれまでの歴史に見ることが出来ないほどの課題を山積させて、子どもたちを窒息するほどに追い込んでいくのである。子どもの問題は四半世紀前よりも残酷な姿をさらしている。

今ここで次の半世紀に連なる光の子どもの家の歴史を、どう切り開いていくか、その転換する課題の重大さを感じている。

一九八四年十二月、第一回職員研修会を地域の農民センターで開催し、開設に備えていた。

一九八五年二月十四日発行の、光の子どもの家設立準備会だより、同年七月二十日付光の子創刊号に聴きながら、もう一度光の子どもの家の成り立ちの源に立ち返り、その地点から展望をし直そうと思う。

突然襲った地域の施設開設反対運動にもみくちゃにされながら、四月末には待機していた職員が集合して五月一日福島県理事長より辞令交付を受けて就任式を挙行。玄関前に樅の木を記念植樹。この頃、反対運動はまさに燃えさかっていた。

岩崎まり子は、共に困難を乗り越える、そのことに目標を定めて身を備えた。今は結婚して二児の母となつて館山理可は、この私が何故光の子どもの家の最初のメンバーなのか信じられない、とその思いを記している。病を得て一年余りで退職した上棟圭子は、多くの困難を味わつてくる子どもたちを出来るだけやさしく暖かく接したい、と思いを昂ぶらせやってきました。池田祐子は、自らのプライバシーを語って輩のきつかけを作り、新しく創る光の子どもの家の困難を予知するかのよう

に突き進む決意に全身を満たして

いる。身体障害者の補装具製作に当たっている丹羽倫己は、自らの貧しさを嘆きながら精一杯頑張ろうと決意を記した。管理的にならないように、子どもと同じ目の位置を維持することを言い聞かせながら田中郁夫はここに居る。(以上準備会だより)

何もない平地の起工式から、育ったかのように出来上がる建物に負けないようなはたらきを誓った石毛照子は指導員と結婚し、今は母親として奮闘の日々を送っている。初めて青森から出た秋本光代は、子どもたちとの暮らしの中で一人前の大人になれそうだと期待を残している。倉澤智子は、駅伝の第一走者になぞらえてその決意と責任で紙面を染めた。ここに至るまでの全てが、光の子どもの家につながっている。ここから出た子どもたちを送りだそうと、竹花信恵は決意した。(「光の子」創刊号より)

まさに決意が漲り、目を上げた荒ぶるような息づかいの十二名によつて光の子どもの家のスタートが切られたのだった。

この志をもう一度わがものにし、ここから、その出発につながる次の二十五年を展望していく第一歩を、今年、歩き出す。

去る十二月八日は「カアクペのマリア」というパラグアイの祝日で、カアクペ教会まで歩いて行って、ミサに与ると願いがかなうという言い伝えがあり、この日はカアクペ教会への長い行列ができる。「ラモンさんが、ミサが何回もあって、心が満たされ、とっても良かったと言っていたけれども、ラモンさんが話すと、本当にその通りだっただろうなあと思わされるよね」と妻は言い、私も同感ではあるのだが、そんなスペイン語がどうして妻に理解できたか、不思議ではある。

今年、光の子どもの家は二十六回目の新年度と創立二十五周年を迎える。これまで数え切れないほど多くの人々の豊かな心を集め、ここに集まったはたらき人たちの熱い思いの数々、そして一〇〇名になろうとする子どもたちの無垢な魂たちと共に紡いできた暮らしの集積などによって、不備をかこちながらも程度度の社会的評価と実績を見ることが出来ている。しかし、子どもたちのためのものの施設をめざしながら、その実は私のための私の施設にしてきた傾き

は否定することが出来ない。はたらき人たちの普遍的な課題は残存したままである。

そして、子どもたちの状況はこれまでの歴史に見ることが出来ないほどの課題を山積させて、子どもたちを窒息するほどに追い込んでいくのである。子どもの問題は四半世紀前よりも残酷な姿をさらしている。

今ここで次の半世紀に連なる光の子どもの家の歴史を、どう切り開いていくか、その転換する課題の重大さを感じている。

一九八四年十二月、第一回職員研修会を地域の農民センターで開催し、開設に備えていた。

一九八五年二月十四日発行の、光の子どもの家設立準備会だより、同年七月二十日付光の子創刊号に聴きながら、もう一度光の子どもの家の成り立ちの源に立ち返り、その地点から展望をし直そうと思う。

突然襲った地域の施設開設反対運動にもみくちゃにされながら、四月末には待機していた職員が集合して五月一日福島県理事長より辞令交付を受けて就任式を挙行。玄関前に樅の木を記念植樹。この頃、反対運動はまさに燃えさかっていた。

岩崎まり子は、共に困難を乗り越える、そのことに目標を定めて身を備えた。今は結婚して二児の母となつて館山理可は、この私が何故光の子どもの家の最初のメンバーなのか信じられない、とその思いを記している。病を得て一年余りで退職した上棟圭子は、多くの困難を味わつてくる子どもたちを出来るだけやさしく暖かく接したい、と思いを昂ぶらせやってきました。池田祐子は、自らのプライバシーを語って輩のきつかけを作り、新しく創る光の子どもの家の困難を予知するかのよう

に突き進む決意に全身を満たして

いる。身体障害者の補装具製作に当たっている丹羽倫己は、自らの貧しさを嘆きながら精一杯頑張ろうと決意を記した。管理的にならないように、子どもと同じ目の位置を維持することを言い聞かせながら田中郁夫はここに居る。(以上準備会だより)

何もない平地の起工式から、育ったかのように出来上がる建物に負けないようなはたらきを誓った石毛照子は指導員と結婚し、今は母親として奮闘の日々を送っている。初めて青森から出た秋本光代は、子どもたちとの暮らしの中で一人前の大人になれそうだと期待を残している。倉澤智子は、駅伝の第一走者になぞらえてその決意と責任で紙面を染めた。ここに至るまでの全てが、光の子どもの家につながっている。ここから出た子どもたちを送りだそうと、竹花信恵は決意した。(「光の子」創刊号より)

エッセイ

ナイカ・ガイカ

彫刻家
中島
睦雄

夜のテレビを、見るともなしに見ていたら、おもしろい番組が目をつけた。

学者や俳優、タレントなど、かな

り高学歴をもった人たちに、漢字の正しい読みをクイズのような形で読ませたり、慣用語を言わせたりしていた。その番組を見てると、私でも解る答が多少はあるので、ついつい、用事をかかえていながら、ずるずると見続けてしまうことになる。

あれが、手も足も出ないような難解

な問題だったら、初めから見る気がしないのだが、多少でもわかるのがある、と、いつの間にか引きずられてしまう。テレビでは解答の時間が大変短いので、出演者たちも、わかっていながら口に出ないようなものもあるようだ。

私の場合、考える時間が充分あるのに、漢字の読み違えをすることがいくらかでもあるし、読めない文字にも、いくらかでも出会う。

以前東京に住んでいる知り合いの人から俳句の句集をいただいたこと

がある。四百句ほどの俳句がならん

がある。四百ほどの俳句がならんでいたのだが、その中に、全く読めない漢字が四十字もあつた。したがって、当然意味もわからない。

漢和辞典と国語辞典の助けを借りて、長い時間をかけてやっと解決したという具合である。言葉を専門に扱う生活をする人と、目先のことに追いまわされて無我夢中で暮らしている人間との大きな差を痛感させられた。われながら浅学非才を恥じるのである。

その程度の私が、他人の言葉つかいのアラサガシをする訳ではないがために、おもしろい経験をすることがある。

以前、中学生のA子さんと雑談をしていた中で、私が「A子さんは将来何になりたいの?」と聞いた。「看護婦さんになりたいんですよ。」

と言う。「あ、そう、苦しんでいる患者さんから見ると、看護婦さんは天使のように思えるんだよね。ところで何料を希望してるん？」と聞いてみると、私をびつくりさせる答が

返ってきた。「ナイカでもガイカでも、どちらでも。」というのである。

私は思わず「あれはゲカと読む
だべ？」と言つてしまつた。しかし、
A さんの答えたナイカでもガイカ
でもという読み方は大變氣に入つて

しました。内科はナイカで良いか
外科をガイカとは。そうだとすると
小児科はコジカか、と考えていくう
ちに、すっかり愉快な気分になって、
心の中で何度もつぶやいた。ナイカ
でもガイカでもコジカでも。小さい
鹿でも現れてきそうで、楽しい気分
だ。

私は家に帰り、家内に話してみた。家内もかなりのふざけんぼなので、私の話を気に入ってくれて、ナイカ、ガイカ、コジカという言葉を、家の中だけでは連発し、楽しんでいた。

そんな訳で、私と家内だけの間では、ナイカ、ガイカ、コジカという言葉を、ふざけ半分によく使うようになってしまった。

そこまではまあ、大した問題はなかったが。

最近私の息子が病気で入院していた。初めは内科で治療を受けていたが、手術が行われ、順調に経過していたので、外科の病室へ移された。私と家内は、手術の成功を伝えられ、ほつとし、肩の荷をおろしたような

気分で、待合室にいた。

そこへ親戚の人が見舞に来てくれた。「入院と聞いて来てみたんですが、その後どうですか?」と聞く。私たちは、ていねいにお礼を言つて、息子の病状や恢復の状況などを説明した。すると家内は「手術前は内科の病室に入っていましたでしたが、手術が終わりましたので、今度はガイカの病室へ移ります。」と、あつさりと言っている。私は慌てて「おやおやガイカが出ちゃったな。」と言うと、彼女は?という顔をしている。「だめだよ、ナイカ、ガイカ、コジカが出ちゃったよ」と私が言うと、やつと氣がついて大笑いになつてしまった。不思議な顔をしている親戚の人に、その言葉の来歴を説明するとそこで又大笑いである。

ふざけ半分にしても、間違った言い方を或る程度使っていると、無意識的にそれが出てしまう。

最近私も「ものみゆうざん」だとか「みぞうゆう」だとか言つてふざけているが、氣をつけないと大事な場所ですれがでしてしまうかも知れない。アブナイ・アブナイ。



のですから。

私が救われたのは、その時ちょうどある人に誘われて、教会の門をたたき聖書の勉強をすることになったからです。始めたのは全く私の意志ではなかったのですが、次第に「伝道の書」（コヘレトの言葉）に惹きつけられました。「全ては空である」という…。私は自分のことを明るい性格であると思っていましたが、本当は暗い事が嫌で、明るい事に無理やり目を向け、明るく振舞う事で自分には明るいと思い込みたかったのだと気がつきました。本当は自分の心こそが本当に暗く、底無沼の様だったのです。何を目指すべきかを知らず、何を核とすべきかを知らなかったのですから。

そうして聖書を勉強し、障碍を持った人たちからピユアな心を学び、受洗へと導かれたのです。

Fちゃん、毎週教会学校で会うことは出来なくなりましたが、いつか、また会えるよね。いつも神様が共に歩んで下さいます様、お祈りいたします。

P・S 文中のある人とは、今の夫です。

お見舞い
パートⅢ

日本キリスト教団東大宮教会

桐生純子

パートⅠでは大高晋一郎さん、パートⅡでは西貝洋子さん、パートⅢでは永野三恵さんにお見舞いを申し上げることになってしまいました。それぞれの方々の上に主の癒しと支えがあり、回復されますことを心よりお祈り申し上げます。と同時に、これを最後にと願います。

十月の最後の日曜日の教会学校で、礼拝後、一人でちよつとはにかみながら、Bちゃんが私の所へやつて来ました。Bちゃんは九月末にご家族の元へ帰ることになり、それ自体はとても嬉しい事なのですが、何のお別れもしないままで心がモヤモヤしていた私は、一ヶ月ぶりにお顔を見て、思わず「Bちゃん、良く来たねえ」と大声を上げ抱きしめてしまいました。Bちゃんは何も言葉には出しませんでした。私が喜ぶ顔を見てホッとしたように笑顔になり、なおかつそのしつかりとした瞳がお別れをしに来たという決意のようなものを伝えていました。

Bちゃんはいつも静かで分級で

もあまりおしゃべりしているという感じではなく、低いトーンで落ち着いた話し方でした。そのＢちゃんが、全く違う一面を見せてくれた事がありました。それは昨年度の終わりの頃、同じ幼稚園に通っていたＡ君と一つ上のＦちゃんと三人で、園歌をそれはそれは元気に、大きな声で楽しそうに歌ってくれたのでした。何度も何度も私は（どこまで歌うのだろう）と

興味があつたので止めなかつたのですが、三人は三番まで歌い終わつても止めることなく又、一番から歌い、三回程歌つた所でバスの時間になりストップすることに……ストップしなければ、何回歌つたことでしょう。三人とも力一杯歌い続けたので、冬であつたのに汗びっしょりになっていました。Fちゃんがリードをしていたのですが、歌詞など細かい所もしっかりと歌っており、そのエネルギーのすごさにびっくりしたのでした。

一つ上のFちゃんのパワーに負け

ないようにBちゃんも持てる力を出し切ったのでしょう。そこには入って来たばかりの時の不安げな自分を表現することを拒んでいるかのようなBちゃんの様子はみじんもありませんでした。

入所してまだ数カ月。その成長と子ども同士のよい関係、子ども自身が持っている計り知れない能力を、また学んだのでした。

私は特別支援教育の仕事に携わって八年目となります。色々なお子さん達との出会いがあり、関わりがありました。その核になっているものは、初めて就職した時の重度的障害者・児施設での経験の様です。「福祉をやりたいと言うのであれば、まず始めに経験しておくべきだと思うよ」というある人の勧めがあったからです。これは正解だったと思います。短い間でしたが、人間とは？生きるとは何ぞやを考える事ができたからです。

それはそれまでの価値観を根底からひっくり返して見直す作業でもありましたから、とてもしんどいものでした。それはある種の虚無感を引き起こしました。当然です。今まで価値を置いていたものがそうではない事に気付いていく



謹んで新年のご挨拶と申し上げます。皆様の祈りとお支えのうちに、幼児五名・小学生十七名・中学生六名・高校生七名計三十五名と卒園生四名・職員二十一名と共に、二十四回目の新年を迎えることができ、心より感謝申し上げます。

私自身施設長として三年目を迎え、子どもたちが背負っている問題の深さに日々心を痛めております。この一年も子どもたち一人ひとりが輝けるように、私たち職員一同子どもたちのそばに寄り添って行きたいと思っております。これからも皆様方よりのご指導賜りますようお願い申し上げます。

新しい一年も皆様方の健康と平安をお祈り申し上げます。

施設長 田中 郁夫

明けましておめでとうございます。新しく今から始まるこの年を、希望を持ち光を見つめて歩みたいと思います。

光の子どもの家も創立以来、二十五周年を迎えようとしております。たくさんの子どもたち、その家族、そして支援して下さる多くの方々とお出会うことができ、その人の輪こそが私たちの宝物です。

これからも光の子らしく歩むことができるよう、お支えとお祈りを、どうぞ

いきたいと、新年の抱負はいつも変わります。来年の新年には次なる抱負をお伝えできるよう、一日一日を大切にして過ごしていきたいと思っております。今年も変わらぬご支援、ご声援、ご指導をよろしくお願いいたします。

鈴木 晶子

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様に支えて頂き、子どもたちと新たなスタートを迎えられることをうれしく思います。様々なハプニング？を楽しみながら生活したいと思っています。

牧野由紀子



明けましておめでとうございます。今年も子どもたちの笑顔をたくさん作り出すことができるよう、力を尽くしたいと思っております。至らないことばかりですが、皆様に見守っていただいていることを力にして、頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

積 みどり

ぜひよろしくお願い致します。

竹花 信恵



明けましておめでとうございます。今の世の中、良い話はあまりありませんが、子どもたちと一緒に希望を持って過ごして行きたいと思っております。

五木田 供三

あけましておめでとうございます。昨年度もたくさんのお支えありがとうございました。あつという間に一年が過ぎてしまい、その年の干支がなんだったか思い出せないうちに新年を迎えてしまいました。今年は忘れないように牛肉を沢山食べて、牛のようになりたいと思います。

小西 剛史

明けましておめでとうございます。昨年は多大なご支援、ご協力ありがとうございました。早いもので、私が光の子どもの家の職員となつてから二度目のお正月です。子どもたちと一緒に

新年明けましておめでとうございます。十二月二十八日にお餅つきをしました。臼の回りに子どもたちが集まり「ヨイショ、ヨイショ」と大きな声で声援が始まり、賑やかです。

きなこ餅、納豆餅、からみ餅、お雑煮、お汁こなど盛り沢山です。お家に帰る子のお土産にも出来ます。これもあたたかいご支援のお陰と深く感謝致しております。

鎌田 洋子



明けましておめでとうございます。昨年の皆様のお支えに心から感謝しております。美味しく栄養満点のごはんを楽しい食卓で、子どもたちの笑顔と健康を願いを込めながら、今年もお台所を守っていこうと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

平川 光子

おいしいお餅を食べて楽しく過ごしたいと思っております。昨年のお正月を思い出してみると、子どもたちの成長に驚かされます。私も負けずに頑張りたいです。今年もどうぞよろしくお願い致します。

高野真夕子

明けましておめでとうございます。昨年はたくさんのご支援を、心より感謝申し上げます。光の子どもの家に来て、初めてのお正月を迎えました。子どもたちと一緒に、楽しく過ごしたいと思っております。今年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

岩瀬 志穂



みなさま、明けましておめでとうございます。昨年もたくさんのご支援、ご声援、ご指導をいただき、ありがとうございました。

私はもうすぐ、ここに来て五回目の春を迎えます。今年こそ穏やかに、心に余裕を持って子どもたちと生活して

新年明けましておめでとうございます。私は光の子どもの家に来て、まだ日も浅いのですが、いろいろな行事を経験させてもらいながら、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っております。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

皆様の暖かいご支援を心から感謝致しております。

梅田由味子



明けましておめでとうございます。皆様の温かいご支援のお陰で昨年も無事に子どもたちは元気に過ごす事が出来ました。ありがとうございます。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

田中 要一



河のほとり

倉澤家

あけましておめでとうござい
ます。今年もよろしくお願い致しま
す。

現在の倉澤家で迎える二二回目
のお正月となりました。時がたつ
につれて、地域の皆さん、特にご
近所とお付き合いが少しずつ増
えてきました。

倉澤家の周囲には、古くから住
んでいらっしゃる人生の先輩がた
くさんいます。

お隣の渡辺さんご夫婦は、とて
もきさくな方たちで、日頃から顔
を合わせれば声をかけて下さり、
成程がばかな事をしていれば叱っ
てもくれます。回覧板を持ってい
くたびに、成程や娘におかしを下
さり、今では回覧板を持っていく
ことが楽しみになっている二人で
す。

お向かいの葛西さんのおばあち
ゃんは、家の前を掃除する時に
「ついでだから」と、いつも倉
澤家の前の掃除をしてくださいま
す。先日、いつものお札にと、私

と成程で葛西さんのお宅のゴミ出
しをお手伝いしました。

もう一人、まだお名前はおか
つていないのですが、倉澤家の近
くの畑で野菜を作っているおばあ
ちゃん、夏はきゅうりやなすを、
冬はねぎや白菜を「これ食べな。」
と置いていつて下さいます。

こんなステキな先輩たちに囲ま
れて生活できることをとても光榮
に思います。

今は少なくなりましたが「ご
近所付き合い」は、子どもを育て
て行く中で、とても大切なことだ
と思います。

親だけでは、ましてや私たちの
ように親ではないものたちだけで
は、子どもたちをうまく育てるこ
とはできません。これからは地域
の方々をはじめ、子どもたちを見
守って下さっている皆さんのお力
をお借りして子育てに励みたいと
思っています。



倉澤 智子

子どもたちの季節

仙道家

新年明けましておめでとうござ
います。

昨年おみなさまにお祈り、お支
えいただき、子どもたちと共に
新しい年を迎えられました。どう
もありがとうございます。

子どもたちが心待ちにしていた
冬休みに入り、クリスマスも楽し
く過ごし、家族の色が濃くなるお
正月を迎えました。お正月には、
光の子どもの家を旅立った子ども
たち（二十代、三十代ですが……）
も里帰りします。イベントの度に
来てくれる子どももいますが、お
正月に会うと「里帰り」という感
が一層強くなり、彼ら彼女らにと
つて光の子どもの家は「実家」に
なっているのかな？と思います。
今、仙道家で暮らしている一人
ひとりの顔を思い浮かべ、将来、
帰ってきたいと思える人間関係、
家での暮らしを作れているだろう
か？と自身を振り返ってしまいま
す。

家族の色が濃くなるこの時期に、

となっています。光の子どもの家
の卒園生開も三十歳を過ぎそのあ
おりを受けてしまい、昨秋から次
の仕事が決まるまでの間、居させ
てほしいと助けを求めにきました。
当初は数週間のうちに派遣社員と
して配属先が決まる予定でしたが、
このご時世で不採用になってしま
いました。連日の報道にあるよう
に、今回の不況はかなり厳しく何
度もハローワークに足をこんだ
ものの、求人ほとんどない現状
のようです。

そんな苦しい状況にある開です
が、佐藤家の指導員役を担って
もらい大活躍してくれています。細
やかな所に目を配ってくれたり、
丁寧な声かけで子ども達に接して
いる姿を見ると自分自身の子ども
達との関わりを見直すきっかけに
なります。生き方探しをしている
男子高校生達には、開の失敗談も
交えながら人生のアドバイスをも
らっています。

開にとって再チャレンジの今年
が新たな道が拓かれるように祈っ
ています。

穴水 祐介



原田家日記

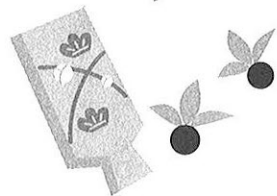
新年、あけましておめでとうご
ざいます。今年もよろしくお願
いします。

今年の三月で、私は初めて担当
の子どもを送り出します。彼女は
訳あって高校に四年間通いました。
私だったら通い通せなかったと思
います。そんな彼女が就職先を決
め、職員寮で一人暮らしをするの
です。その過程には沢山の人の関
わり、助けがありました。彼女と
共に本当に感謝をしています。ま
た私自身彼女から、いろいろな意
味でたくさんのプレゼントをもら
い、彼女との出逢いに感謝してい
ます。

彼女は彼女なりの成長をしてき
ました。出逢った頃の彼女からは、
今の姿は想像できません。私は体
型くらいしか成長できなかったか
もしれませんが、彼女の心は大き
く変わりました。（未だに幼い部
分はありますが……）これからの
生活に不安になっている彼女に
私は、「華美は高校も通い通して
きた、剣道だってやって来た。パ
イトも始められた。やろうと思え
ば出来る。絶対に諦めるな。」と
伝えてきています。華美は「うー

ん」と嬉しそうな顔をしていま
した。私はこれからも生きていく限
り、彼女のことを応援していきま
す。華美がここを出た後も、一人
ではないと思えるように。

田口 貴子



季節のおとずれ

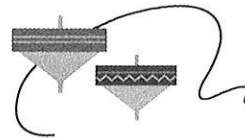
竹花家

新年明けましておめでとうござ
います。今年もよろしくお願
い申し上げます。

新年を迎える前に、今年中学生
になる誠一の大きな成長を見るこ
とができました。スポーツが得意
で年齢を問わず友達が多い人気者
の誠一ですが、失敗に対しての恐
れなのでしょうか、挑戦してい
くことが苦手だったのです。努力す
れば誠一ならきっとできると思え
ることも、やる前から諦めて失敗
を避けようとする、なんとももっ

家族と過ごせる子ども、過ごせな
い子どもと様々ですが、豊かであ
たたかい時間と関係が持てるよう
にスタッフ各々が心を遣っていか
なければと思います。

池田 祐子



光の中で

佐藤家

明けましておめでとうございま
す。皆様のご支援により今年も子
どもたちと新たな年を迎えること
ができました。心より感謝申しあ
げます。皆様にとって本年が祝福
に満たされた一年でありますよう
にお祈りします。

昨年夏、アメリカ発の大不況が
日本にも飛び火しそれまで好調だ
った一流企業の業績悪化のため、
次々に派遣社員を中心とした大幅
な人員削減を行い深刻な社会問題

たいない面があったのです。

しかし誠一は秋頃から持久走大
会、漢字テストなど時ある毎に挑
戦していく姿を見せてくれました。
目標には届かなくても挑戦してい
く彼の「しぶとさ」を、わたしは
何とも嬉しく感じました。

子どもには生まれつき向上心
があると思います。何でも出来るよ
うになりたい、自分でやってみた
い。どの子にも生まれつきの向上
心を大事にしていろいろなことに
挑戦していつてほしいと願ってい
ます。

鈴木 洋一



家族に関わる その27

菅原 哲男

賀正
皆さまにとってこの年が輝けるものとなりますようお祈りいたします。この年も子どもたちの問題の解決に誠実に取り組み続けて参ります。よろしくお願いたします。

家族から分離された子どもの問題を、子どもだけを相手にして解決できるということはあり得ないことである。

しかし、我が国の社会福祉の思想や技術などが欧米、特にアメリカから学んだ経緯から一九五〇年代後半以降「分類収容」という言葉がキーワードとなって展開されてきた。そのような事情から分類あるいは分化がこれまでの関わりを中心的な考え方や方法となっていたのである。だから、子どもは子どもの関わりがあり、大人は別の場所や関わりで行われてきたのである。

しかし、児童養護施設光の子どもの家においては、子どもは家族の中に座み出され、その構成員として暮らしの中にあったのは自明のことであり、家族を有機体として捉え、その全体に偏りや問題などがあり、子どもの問題が

表出されたものであるという観点から関わりを始めなければならぬと考えてきたのである。

四歳で身体的なあざや傷などが幼稚園の職員などによって発見され、通告されて児童福祉法第二十八条の適用を受け、家庭裁判所の審判を得て小さな体を丸めるように固くしながら紗英はやってきた。

両親は愛し合って結婚し、程なく紗英を生んだ。その後はたいていいた母親に好きな人が出来て家を出て行って離婚した。父親は間もなく若い女性を家に連れてきた。この女性の出現によって家族関係は混乱していった。競輪など勝負事の好きな父親はその女性と一緒に遊び歩いた。競輪場に行くときなどに無認可の託児所をよく利用していた。設備などが貧しく人的にも最低基準を満たさないその託児所が、紗英には最も居心地のよい場所だった。若い女性を失いたくない父親によって、また若い女性と父親に面倒をかける紗英は日常的に打たれ、タバコの火を押しつけられ虐待はエスカレートしてい

った。悲だらけで細かい体になって紗英は児童相談所・警察などによって救出されたのである。

鋭い目つきと攻撃的な物言いの四歳児は、職員になって間もない保育士に担当されて絶対受容：生まれたばかりの子どものとして受け止める：をテーマにした関わりによって、次第に警戒心を解きほぐし穏やかな表情に変わっていったのは入所後二ヶ月ほど後であった。紗英にとって母親とは、父親とは、家族とは何を意味していたのだろうか。半年ほど過ぎた頃に当該の児童相談所のワーカーから母親が家庭裁判所に親権の変更を申し立てたという連絡があった。そしてしばらくあつて親権の変更更に父親が同意して認められたのだった。

それから数ヶ月後に人の良さそうで華奢な体つきの母親が光の子どもの家に児童相談所職員に伴われてやってきた。

紗英にとってその母親は、確かに生んでくれた母親そのものであったのだが、酷い虐待をした恐ろしい母親でもあったのである。

児童相談所の職員が紗英に母親と会いたいかと質問をした。すぐには返事が出来なかったのだ、その日は母親と紗英の対面は見送られて、母親は涙しながら帰って行った。

数日後、保育士が紗英と入浴を楽しんでいたときに、紗英に「お母さんと会いたくない？」と聞いた。紗英は少しうつむいてしばらく考え込むようにした。そして「優しいお母さんに会いたい」とぼつりと、そしてはつきりと言ったという。

その報告を受けて、児童相談所とのやりとりが始まった。

埼玉県は今年から児童相談所の担当ワーカーとその上司などがチームになって、児童養護施設に居る子どもたちで、家庭復帰の可能性のありそうな子どもたちをピックアップして「家庭復帰プログラム」を始めている。そのはたらきはかなり斬新なもので、丁寧な関わりとしてプログラムされていて、私たちの考えや関わりと重なるものであった。

今年度初めの頃は、光の子どもの家にいる子どもたちの中で、比較的人所して間もない子どもたちで年齢の低い者を選んでこのプログラムを児童相談所とチームを組んで展開してきていた。児童相談所のプログラムのチームと入念な協議の上、紗英の母親との面会から家族の再生に向けて家庭復帰プログラムの関わりを始めた。

現場から

続・光の子らしく

③4

岩崎 まり子

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

早いもので、ここが開設してから二十四年が経ち、当初のワイドショー的な騒動や、また日本中が激震に揺れた（はずだと思っっているのですが）サリン事件などを「全く知りません」という職員たちと働く重要性については意識しているつもりでした。

なのに若い職員を一人、病欠にしまいました。ああした方が…… ああしたから……言葉

に出来ない思いが渦巻き、行き着くところは、私の器の小ささ“なのです。

それは職員相手だけではなく、子どもと向き合っている間中ずつと突きつけられている課題であり、申し訳なさばかりを積み上げています。

ここで働いていて一番辛いのは、そういう情けない自分自身を引き受けなければならぬことです。何も子どもの為にできないどころかマイナスの存在でしかないという事実を引き受け、その上でどうするかを考え続けていくことを私も引き受けていく。辛かった



という過去形にはならないのです。ただ、それは、私が未熟だという個人的な問題かもしれません。

引き受けるということは、古い言い回しかもしれませんが、腹をくくるといふことでしょうか。自分の中で右往左往することはあっても、基本的には「引き受ける」と言ったら引き受けるのです。それは、まさに、ここへやってきた子どもたちの姿勢そのものです。

昨年、誕生日に真実告知をした丘実ちゃんは、母を慕い頼りたいという思いの反面、母のしたこととを許容できず、自尊の心がズタズタになりそうなのを懸命に耐えています。再生の道のりは過酷で長く掛かるかも知れませんが、彼女の十年、二十年先を見据えながら、今“を引き受けていくしかないし、実際彼女はそうしているのです。

先日、おやすみを頂き帰ってくると、いつものように私の布団が敷いてあり枕元に交換ノートが置いてありました。丘実ちゃんと理奈ちゃんのものです。それぞれ、どんな一日だったかが書いてあり、「世界で一番大好き」そして、「洗濯物を干しておきました。」驚いて中二階へ行ってみると、

本当に小学生たちの洗濯物が全部、不格好にはありますが干してありました。高いところにかけてある角ハンガーなので、どんなに不安定な足場で一生懸命干してくれただか目に浮かぶような光景に目頭が熱くなりました。たぶん、病欠の職員のことを思い、そのことで起こっている私たち大人のドタバタを見、氣遣ってくれたのだと思います。

本当にいつも私は一人よがり、いろいろなことを自分が一人で引き受けたような気になっているけれど、本当はこんなに周りに引き受けてもらっているのだと改めて思います。

翌日、心からの「ありがとう」を伝えると「嬉しかった？」「すごい助かった？」と、とても誇らし気でした。

これからも、きっと私は何も出来ないのだからと思いますが、子どもたちに負けないよう引き受けるべきを引き受けられるよう努力していきたいと思っています。これからもどうぞ指導よろしくお願いたします。



賀 正

今年もよろしく

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2008年10月1日▶11月末日

2008年10月

幼児5名 小学生17名 中学生6名 高校生7名 措置外4名 計39名

- 2日 関東ブロック職員研修へ2名出席
- 3日 新村義一牧師による夕礼拝 ご奉仕感謝
- 4日 幼稚園運動会 利生が鼓笛で太鼓を立派に演奏 来たばかりの北斗も元気いっぱい
- 8日 赤十字奉仕団の皆様による除草奉仕は雨天中止 後援会の方々が心を込めて作って下さったおいしいうどんとそばを頂く 民生委員の方々も多数来訪 感謝
- 10日 山ノ下恭二牧師による夕礼拝 ご奉仕感謝
- 12日 卒園生木下由加里の結婚式 職員も出席し新しい門出を祝う これからの生活が祝福多きものとなるよう祈りながら
- 15日 聖学院大学より3名ボランティア来訪 感謝
- 17日 鈴木重義先生による職員礼拝 ご奉仕感謝
- 24日 松嶋由里の送別会 遊びに来てねと子どもたちからの言葉 父も来られ全員で楽しい食事会
- 27日 小舎制養育研究会へ田中施設長 牧野由紀子 高野真夕子が出席 ファミリーソーシャルワーカーという新しい働き の模索と小規模化に際しての問題が取り上げられる
- 30日 田村誠様 散髪奉仕感謝
- 31日 光の子どもの家初代理事長福島勲先生の記念礼拝 福島先生を知る職員から福島先生との思い出を聴く 福島先生が光の子どもの家に込めた祈りと願いを心に刻む

《10月の物品ご寄贈者》

小泉恵美子 薬円台教会 鏡火健一 杉山和俊 後藤利子

渋谷零 小豆沢梓 田部井竹子 セカンドハーベストジャパン 米盛あゆみ 他多数の御各位様

11月

- 3日 第87回理事会
第24回感謝の集い 感謝礼拝に始まり寒空の中来会下さった方々へ感謝を込めたお食事とアトラクション 卒園生も多数集まり賑やかな集いに 日頃ご支援下さっている方々に直接感謝を伝える機会として心を込めてお持て成し
- 10日 川越児相訪問調査
- 15日 光の子どもの家後援会によるそば会 町長や町議会委員の方々教育委員会の方々また学校の先生方も多数来訪して下さり子どもたちの暮らしの様子を見て頂く 後援会の開設当初からのご支援を振り返り心より感謝
- 19日 全養大会へ田中施設長 児童福祉法改正法案の説明と卒園後のフォローの現状確認と課題認識 改正法案には自立援助ホームの年齢制限を18才から20才に引き上げることと里親制度の拡充や施設小規模化の推進などが含まれている
- 27日 田村誠様 散髪奉仕感謝
埼玉県社会福祉課職員3名来訪見学
- 28日 鈴木重義先生による職員礼拝 ご奉仕感謝
- 30日 第一アドベント
《11月の物品ご寄贈者》
高橋孝司 藤田陽子 中村一彦 溝呂木武幸 山本治州彦 梶原完 松本明子 鈴木宣子 白井直美 山口泰弘 小早川典子 坪井清八 落合洋平 他多数の御各位様
昨年中も多くの方にご支援頂きありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い致します (洋)

/// ———— 反 射 光 ———— ///

新年明けましておめでとうございませう。昨年も多くの方々にご支援頂きありがとうございました。今年も通じて皆様には光の子で「光の子どもの家」の様子をお伝えしてきまして今年も光の子を通して皆様へ子どもたちの暮らしを届けられますよう励みます。☆日光を分光器「プリズム」に通すと様々な色の光に分かれます。☆その色の一つ一つが日光を構成するために必要不可欠な要素です。☆光の子どもの家の一人ひとりが光の子どもの家を構成する大事な存在であり誰一人不要な存在はありません。☆そんな思いを込めて各家の様子を「プリズム」にてご報告しております。☆今年一年も一人ひとりが豊かな色を発し大いに輝く光として光の子どもの家が用いられますよう祈ります。☆しかし尚も力の足りない私たちです。☆本年もご支援とご指導の程よろしくお願い申し上げます。(洋)